

くちづけ

「ひょうたん」「橋」「夕月」の三幅の展示してある部屋
墨絵のひょうたんは太い筆でくねくねと描かれてゐた
夏木立の中の朱塗りの橋は強烈だつた
夕月は海の上にあつて海辺はひどくくらく描いてあつた
美術館は閉館に近い時間だつた
あれは何室目あたりのことだつたらう
前後の部屋を通して無人であつたし静寂であつた
「夕月」の前でどちらからともなくくちづけをした
「海の色がをかしいね 真珠の粉がまぜてあるのだらう
僕がつづいて
「あかるすぎるもの」
と言つた時
気がつくとなあなたはゐなかつた
どンドン行つてしまつてゐた
「図録を眺めながら僕は思い出してゐる
あの時の二人は不器用で うまくいかなかつた
口の中がじやりつとした
夜ふけての反省として解説すれば
つまり『夕月』の作者か デーモンが怒つて砂を僕たちの口に投げたのだ」
今度 仲なほりしよう